海外協定校長期派遣留学報告書

氏名：前田來夢

学部学科名：農学部農学科

留学先学校名マレーシアプトラ大学

1.留学の目的

私の将来の目標は海外で生活することであり、その実現に向けて、学生のうちに実際に長期間海外で生活をする経験を積みたいと考えました。そのため、本留学では単なる短期滞在ではなく、現地の生活を通して文化や価値観の違いを体感することを目的としました。

また、大学生のうちに自分自身にとって大きな挑戦をしたいという思いもあり、慣れない環境に身に置くことで、自立心や適応力を高めることを目指しました。特にイスラム教を基盤とする国での生活を通して、日本とは異なる宗教観や生活習慣に触れ、異文化理解を深めることも重要な目的の一つでした。

さらに、専門分野である農学においては、持続可能な農業について学ぶことを目的としました。中でも、森林破壊や持続可能性との関係が問題視されているアブラヤシプランテーションに着目し、その現状や課題、そして持続可能な生産に向けた取り組みについて、現地での学びを通じて理解を深めることを目指しました。

2. 現地での生活について

（住居、キャンパス、友達との交流、余暇の過ごし方など）

留学期間中は、大学から車で約 15 分の場所にある Meta Residence に滞在していました。日本でいうタワーマンションのような住宅で、24 時間体制の警備があり、入館管理もしっかりしていたため安全面で不安を感じることはほとんどありませんでした。また、建物内にはコンビニエンスストア、自動販売機、カフェ、ジム、プールなどの設備が整っており、生活に必要なものはほとんど敷地内で整えることができました。生活環境は非常に快適で、勉強と日常生活の両立がしやすい環境でした。

日本ではマレーシアに対して発展途上国というイメージを持つ人も少なくありません。しかし、実際に生活してみると、高層マンションや大型ショッピングモール、公共施設などのインフラは非常に整備されており、生活の利便性は日本と比較しても多きな不便を感じることはありませんでした。物価が日本より安い一方で、住環境や設備の水準は高く、快適に生活することができました。実際に現地で生活したことで、日本人が住みたい国ランキングでマレーシアが長年上位に位置している理由を肌で実感することができました。留学前に抱いていたイメージと実際の生活環境との違いは非常に大きく、自分自身の固定概念が大きく変わった経験の一つとなりました。

授業は、UPM の農学部キャンパスで受講していました。農学部キャンパスはメインキャンパスからバスで約 20 分程離れた場所に位置しており、緑が多く落ち着いた環境の中で学ぶことができました。農業に関する実験施設や研究圃場も充実しており、実践的な学習を行うには非常に恵まれた環境でした。

メインキャンパスには多くの留学生が在籍していましたが、農学部キャンパスで

はマレー系の現地学生が大半を占めていました。そのため、キャンパス内では英語よりもマレー語が日常的に使用されている場面が多く、授業でもマレー語が多く使われていました。最初は会話の内容が理解できず戸惑うことも多くありましたが、英語が共通言語として使用できるため、コミュニケーションに大きな支障はありませんでした。一方で、現地学生が日常的にマレー語を使用する様子を見て、多民族国家でありながら自国の言語を大切にしている文化を感じることができました。

大学への移動は主にバスを利用していました。しかし日本の公共交通機関のように時間通り運行されることは少なく、予定時刻を過ぎても来ないことが珍しくありませんでした。時には3時間以上バスが来ないこともあり、最初は非常に驚きました。しかし、現地学生はそれを特に気にする様子もなく、のんびりと待っている姿が印象的でした。このような経験を通して、日本との時間感覚や価値観の違いを実感し、マレーシアの焦らず、自分のペースを大切にするという国民性を感じることができました。当初は戸惑うこともありましたが、徐々にその環境にも慣れ、時間に余裕を持って行動する習慣が身につきました。

留学生活では、授業だけではなく多くの人との交流を経験をすることができました。特にUPMの職員であるムジャさんには大変お世話になりました。ムジャさんは留学生同士や現地学生、さらには他大学や他機関の方々との交流会を頻繁に企画してくださり、私も積極的に参加しました。

交流の場では、UPMの学生だけでなくマラヤ大学の学生にも知り合う機会がありました。国籍もマレーシアだけでなく、日本、韓国、パキスタン、その他アジア圏、中東諸国、アフリカ諸国など非常に多様で、それぞれの文化や宗教、考え方について話し合うことができました。同じアジア圏でも価値観や生活習慣が異なることを知り、自分の視野を大きく広げることができたと感じでいます。

また、イスラム教徒の学生と交流する機会も多くありました。礼拝の時間になると授業や活動の合間でも礼拝を行う様子や、食事のルール、日常生活の考え方など、日本では知ることのできない文化に触れることができました。実際に一緒に生活し、交流することで、ニュースや本だけでは理解できない異文化への理解を深めることができたことは、今回の留学で得られた大きな財産です。

授業がない休日には、マレーシア各地を訪れ、観光や文化体験を積極的に行いました。留学中は現地でしか経験できないことをできるだけ多く経験することを意識し、さまざまなイベントや旅行に参加しました。

特に印象に残っているのが、イスラム教最大の行事であるラマダンを現地で体験できたことです。留学前から異文化理解を深めるためにラマダンを経験したいと考えており、実際に断食明けの食事会(イフタール)や地域のイベントに参加しました。日中の断食だけでなく、家族や地域の人々が集まり食事を共にする様子や宗教が人々の生活に深く根付いていることを実際に体験することができました。宗教は単なる信仰ではなく、人と人をつなぐ大切な文化であることを学び、日本では得られない貴重な経験となりました。

また、ボルネオ島のサバ州を訪れたことも非常に思い出深い経験です。サバ州では有機農業を営む農家の方の自宅に滞在させていただき、農業だけでなく現地での暮らしや地域社会について多くのお話を伺いました。実際に有機農業の現場を見学

し、持続可能な農業に対する考え方や地域に根差した農業の在り方について学ぶことができました。大学で学ぶ知識ではなく、生産者の考えや生活を直接知ることができたことは非常に貴重な経験でした。

さらに、現地ならではの食文化にも積極的に挑戦しました。特に印象に残っているのは、サゴヤシに生息するサゴワームという幼虫を食べたことです。日本ではまず食べる機会のない食材であり、最初は抵抗もありましたが、せっかく現地に来たのだから挑戦してみようという気持ちで食べました。このような経験を通して、異なる文化を受け入れる姿勢や、新しいことに積極的に挑戦する大切さを学ぶことができました。

3. 留学を通じて学んだこと

異なる文化や価値観を受け入れる姿勢の重要性を学びました。マレーシアは多民族国家・多宗教国家であり、それぞれの文化や宗教を尊重しながら生活しました。日本とは異なる考え方や生活習慣に触れることで、自分の常識が世界の常識ではないことを実感しました。相手を理解しようとする姿勢を持つことで、文化の違いを楽しみながら交流できるようになりました。

専門分野では、持続可能な農業について理解を深めることができました。大学での講義や農場見学、土壌調査を通して、環境保全と農業生産を両立させることの難しさと重要性を学びました。特に、アブラヤシ産業は森林破壊などの課題がある一方で、多くの人々の生活や世界の食糧生産を支える重要な作物でもあります。そのため、一つの視点だけではなく、環境・経済・社会のバランスを考えながら課題を捉えることの大切さを学びました。

さらに、この留学を通じて、将来海外で働きたいという目標がより明確になりました。海外で生活することへの不安は大きく減り、新しい環境に挑戦することへの自信を得ることができました。一方で、英語力や専門知識など、さらに成長が必要な点も明確になりました。

4. 留学経験を今後どのように活かしていきたいか

今後は留学で得た経験を活かし、海外事業や海外農業に携わることができる企業への就職を目指したいと考えています。特に、現地の生産者と協力しながら栽培技術の向上や農業生産に携わる仕事に就き、留学中に学んだ持続可能な農業に関する知識や現場で得た経験を実際の業務に役立てたいと考えています。そのためにも、大学での学びをさらに深め、栽培技術や土壌、作物生産に関する専門知識を身に付けたいです。

また、今後は英語力の向上にも継続して取り組みたいと考えています。留学中は日常生活は授業を通して英語を使う機会が多くありましたが、専門的な内容を議論したり、自分の考えを十分に伝えるためには、さらに高い語学力が必要であると感じました。将来、海外の現場で円滑に仕事を進められるよう、英語だけではなく、相手の文化や価値観を理解した上でコミュニケーションを取る力も磨いていきたいです。

さらに、この留学で築いた人との繋がりもたいせつにしていきたいと考えています。大学の先生や留学生、現地の学生、生産者の方々との交流を一時的なものにせず、今後も連絡を取り合いながら情報交換を続けることで、自分自身の視野を広げ、

将来の学びや仕事にも繋げていきたいです。

今回の留学は、ゴールでなく将来へのスタートであると考えています。この経験を基盤として、専門知識、語学力、国際的な視野をさらに高め、将来は海外の農業現場で活躍し、持続可能な農業の発展や地域社会への貢献につながる仕事ができる人材を目指して努力を続けていきたいと考えています。